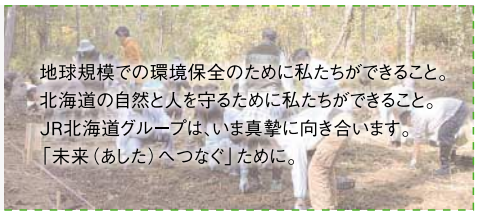
未来（あした）へつなぐ

【ゴミのリサイクル&CO_2排出量削減の取り組み】



地球規模での環境保全のために私たちができること。
北海道の自然と人を守るために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来（あした）へつなぐ」ために。

写真・文＝本間 吾里砂

JR北海道グループの環境対策拠点「資源リサイクルセンター」が完成！

四月一日、札幌市郊外にある石狩（いしかり）工業団地に「資源リサイクルセンター」が誕生しました。北海道クリーン・システムが運営するそこは、JR北海道グループが推進する環境対策の拠点ともなる施設です。一万平方メートルの敷地に工場と事務所を有し、缶、ペットボトル、発泡スチロールそれぞれの圧縮梱包機械を備えた同センターの新設により、同社は廃棄物の中間処理事業への参入を果たしました。

缶・ビン・ペットボトルから紙類、電化製品、OA機器、オフィス用品、PCB廃棄物、さらには機密文書まであらゆる廃棄物に対応する「資源リサイクルセンター」

JR北海道の各駅やグループの商業施設などから出る廃棄物を一時保管・分別・圧縮梱包し、グループ全体のコスト削減へつなげるとともに、環境対策の具体的な形を提示することが同センターの役目。それまでは廃棄物の収集運搬だけだったのが、一時保管機能を有したことで、二十四時間体制での受け入れが可能となり、ビジネスとしての可能性も大きく広がりました。インターネットに法人向け窓口を設けたこととの相乗効果により、グループだけでなく、他の企業からの依頼も増加しています。今後はリスク管理、コスト管理、データ管理を柱とした廃棄物マネジメントを環境対策のあり方として、また新しいビジネスモデルとして広く提案していきます。

収集運搬から中間処理事業へ。工場内で分別作業が行われる

ハイブリッド車の導入、省エネ融雪…CO_2削減にこだわる「桑園自動車学校」

道内初の"屋上教習所"として、平成十四年に新たなスタートを切った桑園（そうえん）自動車学校もCO_2削減に力を注ぐグループ会社の一つです。注目すべきは、教習コースの全面に熱伝導率の高い遠赤外線素子を混入したアスファルトを使用した点。遠赤外線素子にはロードヒーティングの温度が低くても融雪を助長する作用があり冬期間は、ボイラーの使用時間を短縮し省エネ体制を確立しています。ボイラーのエネルギーも天然ガスを利用しており、徹底してCO_2削減にこだわっているのが特徴です。

平成二十年度には、教習車両のオートマ車をハイブリッド車に、マニュアル車を低公害車に総入れ替え。これにより、ガソリンとCO_2の大幅削減を実現しています。Ⓙ

← 75台ある教習車のうち36台がハイブリッド車

遠赤外線素子の上に氷を載せる→とみるみる氷が融けていく